

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科／子ども教育学科		
科目名称	韓国語コミュニケーションⅠ				授業形態	講義	
科目コード	750155	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	
担当教員名	章 大寧					ICT活用	○
授業概要	<p>韓国語講義の目的は、韓国語学習を通して韓国の歴史や文化に触れるとともに、日韓理解の向上と豊かな人間性・社会性・国際性を育てることにある。韓国は日本に最も近い外国であり、歴史・文化の面において共通性が多い。言語の面においても、韓国語は日本語との共通点が多く、日本人にとって最も覚えやすい外国語であるといえる。</p> <p>しかし、韓国語学習を始めてみて、発音が難しい、覚えられない、なかなか上達できない、という人が多いのも事実である。韓国語学習が難しいという原因の一つは、韓国語を表記している文字（ハングル）を十分理解していないことにある。このことは、韓国の文字であるハングルを理解することが韓国語上達の鍵になることを意味している。ハングルは、約600年前朝鮮時代初期に人為的に創作された文字であり、製字の思想や原理を理解すれば読める・書ける程度なら誰でもすぐにできる科学的・合理的に作られている。</p> <p>本講義の到達目標は前期・後期を通してハングルの読み書きと簡単な日常会話ができることである。前期・韓国語コミュニケーションⅠは、韓国語を初めて受講する学生を対象としてハングルの読み書きを十分理解し、読み書きを完全に習得することを目指している。主な内容はハングルの製字思想と原理、子音母音の発音、組み合わせ方、文字の仕組みと読み書きを繰り返し練習するとともに、挨拶・質問・返事など簡単なコミュニケーションができるようにする。</p>						
関連する科目	韓国語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ						
授業の方法と進め方	講義はテキストに即して進めることを基本に、理解を深めるために文法的な説明を加えること、歴史や文化面で関連事項を取り上げることもある。授業方法としては資料配布、パワーポイント利用の他、ペアワーク、グループコミュニケーションなど場面に応じて工夫する。受講生一人一人の理解度・習得状況を確認しながら、読み書きを繰り返し練習する。宿題による自己学習、予習・復習を徹底する。						
授業計画【第1回】	講義紹介						
授業計画【第2回】	韓国語と日本語の共通性・相違性 テキスト、基礎第1課 p6-7						
授業計画【第3回】	ハングルの製字思想・原理・発音 基礎第1課 p8-9						
授業計画【第4回】	基本母音・文字 基礎第2課 p10-13						
授業計画【第5回】	基本子音・文字 基礎第3課 p14-19						
授業計画【第6回】	合成母音・文字 基礎第4課 p20-23						
授業計画【第7回】	合成子音・文字 基礎第5課 p24-29						
授業計画【第8回】	単語の読み書き・発音の変化 基礎第6課 p30-34						
授業計画【第9回】	挨拶・読み書き 基礎第7課 p35-39						
授業計画【第10回】	自己紹介 第1課 p40-45						
授業計画【第11回】	平叙文・質問文 第2課 p46-51						

授業計画 【第12回】	返事・肯定・否定 第3課 p52-57
授業計画 【第13回】	存在 第4課 p58-63
授業計画 【第14回】	する動詞 第5課 p64-69
授業計画 【第15回】	講義のまとめ・総合復習
授業の到達目標	ハンゲルの製字思想・原理・発音を理解し、読み書きができる。 基礎単語・基本表現を習得し、読み書きができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学習 【予習】	講義進行・テキストに沿って読み書き練習を徹底する。予習 週60分程度。
授業時間外の学習 【復習】	講義進行・テキストに沿って読み書き練習を徹底する。復習 週60分程度。
課題に対する フィードバック	予習・復習・宿題等について受講生に十分説明する。 受講生の疑問・質問に丁寧に対応する。
評価方法・基準	宿題・授業参加度 10% 文字と文章の書き方 20% 文字と文章の読み方 70%
テキスト	木内明 「基礎から学ぶ韓国語講座」、初級、改訂版、CD付き、国書刊行会
参考書	ハン・コウン 「絵で見る韓国語」、IBCパブリッシング株式会社 木内明 「基礎から学ぶ韓国語講座」、中級、改訂版、CD付き、国書刊行会 白峰子、大井秀明 「韓国語文法辞典」、三修社
備考	